

# IoTでリサイクル機械を監視

## スマホ、タブレットで稼働状況等を確認

エムダイヤ

リサイクル機械の製造・販売などを手掛けるエムダイヤ(富山県滑川市)は、IoTの活用を注力していく方針だ。独自開発の分離・破碎機「エコセパレシリーズ」、切断機「エコカッターシリーズ」などを活用したさまざまなリサイクルプラントを提供しているが、そうしたリサイクル機械にIoTを活用した装置を付与して遠隔監視・操作できる仕組みを構築、顧客への提案を本格化させている。

同社は光ケーブル、廃プラスチック、廃タイヤ、紙管、自動車部品、廃小型家電などの異素材混合物を切断や分離、破碎・剥離等処理する設備一式を取り扱っている。保有する最新鋭の工作機械を使って、外部に委託するのではなく、全て自前で顧客の要望に合わせて

オーダーメイドで設備を製造していること、商社やエンジニアリング会社を通じて大手家電、電線リサイクルメーカーなどの顧客に直接納品する形式で、商社等を仲介する場合と比べ比較的安価で商品を提供できること、この2点が大きな特徴となっている。

こうしたリサイクル機械を独自開発のIoTを活用した装置で遠隔監視する。スマートフォン、タブレットなどを活用して状態表示、機械の稼働率、消耗品の交換時期などを確認できるほか、何かあった場合には遠隔停止を行うことも可能となっている。現状でも稼働率等に応じた消耗品の交換時期を算出することは可能だが、光ケーブル、銅線、家電といった破碎物ごとの固有价值なども加え、さらに精度を上げていく考えだ。

同社の森弘吉社長は、「通常はIoTプラットフォームと呼ばれるハードウェアを購入してウェア上でソフトウェアのデザインのみを作成するというのが一般的だが、当社は自前でクラウドサーバーを立ち上げてハードウェアも作り込むという方式を取っている。これはあまり他にはないだろう。『何でも自前主義』というのが当社の基本スタンスだ」と語る。

同社の機械販売は現在順調に推移しているものの、今後は少子高齢化の影響などで全体の設備需要は縮小することも予想される。そうしたことから同社は新規事業の開拓にも積極的で、IoTはその一つの鍵になると見ている。IoTを活用して機械の状況を随時把握し、きめ細かいメンテナンス等のサービスを行うことで顧客と長期的な関係を築くこともできる。また、IoT等を活用し、



リサイクル機械を独自開発のIoTを活用した装置で遠隔監視

今後は国内だけでなく海外市場の開拓も目指していく方針だ。

2526号



発行所 環境新聞社  
 東京本社 ☎(03)3359-5371  
 〒180-0004 FAX(03)3351-1939  
 東京都新宿区四谷3-1-3  
 (第1層ビル)  
 大阪支社 ☎(06)6252-5805  
 〒541-0056 FAX(06)6252-5896  
 大阪市中央区久太郎町3-1-15

新規購読用 ☎(0120)1972-65  
<http://www.kankyo-news.co.jp/>

従価口税 00150-5-20286  
 年間購読料 24,000円+税

©環境新聞社 2020